

歴史A (History A)					担当教員
					教授 鈴木 栄樹
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等	
人と文化	1年次 前期	講義	1.5単位	選択	

【概要】

テーマ《戦後の日本と世界のあゆみ》

2011年3月11日、日本は未曾有の災害（大地震・大津波・原発事故）に見舞われ、そしてまた現在でもその脅威から抜け出せないでいる。同時に、欧州の金融危機とともに円高不況が重なり、2009年に始まった民主党政権は頻繁に内閣が交替するなど、国政の舵取りは大きく揺らぎ、昨年末に再び自民党の安倍政権に交替した。近隣の中国や韓国との間での領土問題をめぐる摩擦、北朝鮮との関係なども外交・軍事だけでなく、経済問題とも絡んで複雑さを増している。このような問題をとってみても、これからの日本と世界はどのようなようになっていくのだろうか、ということを考えずにはいられない。現代の日本に住む私たちには様々な映像が目につく、大量の情報が耳にはいつてくる。しかし、感性的な判断、事実にもとづかない憶測は、現実に対する認識を大きく誤らせ、ひいては人々の相互理解を妨げるものである。講義では、主として第二次世界大戦後の日本と世界の歴史を学び、今後の日本の行く末について考えるための知的素材を提供したい。（授業では実写フィルムなどの映像教材を多用しますが、なかには悲惨な映像もあることを了解したうえで受講してください。）

【授業の一般目標】

歴史を学ぶことで「今」という時代を相対化し、「自分」という人間、「日本」という国を客観的にとらえる視点を獲得し、国際化時代に通用する自分なりの確かでかつ柔軟な価値観をつくりあげてもらいたい。

【準備学習(予習・復習)】

日頃から新聞やテレビ・インターネットなどで国内外のニュースに目を配り、その歴史的な背景について考える習慣をつけてほしい。さらに、講義で扱われた問題についても、自分なりの関心を持って知識と理解を深めてほしい。

【学習項目・学生の到達目標】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標
1	開講にあたって	鈴木	講義についての概観、現代史（戦後史）についての見方を学ぶ
2	「戦後」の成立（1945～1960）1	鈴木	日本の敗戦、米軍による日本占領、新憲法の制定について学ぶ
3	「戦後」の成立（1945～1960）2	鈴木	冷戦の始まり、冷戦開始期のアジアと日本について学ぶ
4	「戦後」の成立（1945～1960）3	鈴木	講和条約締結と日本の独立、1955年体制について学ぶ
5	「戦後」の基本的枠組みの定着（1960～1973）1	鈴木	日本の高度経済成長の意義について学ぶ
6	「戦後」の基本的枠組みの定着（1960～1973）2	鈴木	ベトナム戦争と日本との関わりについて学ぶ
7	「戦後」の基本的枠組みの定着（1960～1973）3	鈴木	沖縄返還、日中国交回復について学ぶ
8	「戦後」のゆらぎ（1973～1990）1	鈴木	第1次オイルショックと高度経済成長の終焉について学ぶ
9	「戦後」のゆらぎ（1973～1990）2	鈴木	第1次オイルショック後の政治と社会について学ぶ
10	「戦後」のゆらぎ（1973～1990）3	鈴木	日本社会の変化、バブル経済の発生について学ぶ
11	「戦後」の終焉（1990～2000）1	鈴木	湾岸戦争、バブル経済の崩壊について学ぶ
12	「戦後」の終焉（1990～2000）2	鈴木	農業・農村社会の変化について学ぶ

13	新しい戦争の中で（2000～） 1	鈴木	9・11同時多発テロ事件、アフガン戦争と日本について学ぶ
14	新しい戦争の中で（2000～） 2	鈴木	イラク戦争、中東と日本との関わりについて学ぶ
15	総括・まとめ		

	(書名)	(著者・編者)	(発行所)
教科書	戦後史（岩波新書）	中村政則	岩波書店
	適宜プリントを配布、またビデオなどの視聴覚教材も多く利用する予定。		
参考書	講義のなかで随時紹介		

【成績評価方法・基準】

定期試験の成績を基本として、さらに小レポートなどを加味して評価する予定でいるが、受講者数によって多少の変更もありうる。

【備考】(担当教員に対する質問等の連絡方法)

質問受けつけ方法等については、初回の授業で知らせる。